

〈活動の概要〉 ◆**団体**

団体名	フリガナ	ギ フ シ リ ッ ギ フ シ ョ ウ ガ ッ コ ウ
		岐阜市立岐阜小学校
活動タイトル (35文字以内)	「地域創造型」の学校を目指す「ふるさと大好き」岐阜小児童の発表・提案	

団体の情報	フリガナ	ギ フ	ギ フ
	〒 500-8038	岐阜	都道府県 岐阜 市区町村
	大工町1番地		(建物名) 岐阜市立岐阜小学校
	電話(代表)	058-265-6388	FAX 058-265-6389
代表者	フリガナ	フジ タ タダ ヒサ	コウ チョウ
	氏名	藤田 忠久	役職名 校長
	電話(学校)	058-265-6388	(緊急連絡先・携帯)
	メールアドレス(PC)	p20984@gifu-net.ed.jp	
連絡担当者	フリガナ	フジ タ タダ ヒサ	コウ チョウ
	氏名	藤田 忠久	役職名 校長
	電話(学校)	058-265-6388	(緊急連絡先・携帯)
	メールアドレス(PC)	gisyo01@gifu-e.gifu-gif.ed.jp	

※メールは、「@hakuhodo.co.jp」が受信できるよう設定をお願いします。

◆**団体設立の趣旨** (学校は記入不要です)

【活動に関して】 *以下全て、今回推薦された活動について

◆活動開始時期 (西暦) 2008年4月 (開校時から13年以上経過)
◆活動の規模 *1年あたりの平均的な参加人数 ・参加している子どもの人数 : 全体 約300名 (内訳) 小学生 約300名 ・指導者数 : 内部 約30名、外部 約30名 ・協力者 (ボランティア等) 数 : 約60名 ・開催ペースやクラス数 : 生活科 (1, 2年) 4~5学級、総合的な学習 (3~6年) 8~9学級
◆活動歴・研究歴 ・2008~2009年度 文部科学省調査研究指定校; コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度・以下CS) 推進事業 ・2008~2010年度 岐阜市指定; CS推進事業として「地域や保護者との連携・協働教育プログラム」の開発・実践 ・2011~2016年度 地域の人材を活用した「連携・協働授業」の研究・実践 ・2017~2019年度 CS先進校としての「社会科授業の創造」の研究・実践 (2019年度 第57回「全国小学校社会科研究協議会研究大会」岐阜大会第一会場校として全学級授業公開) ・2020年度~ 子どもが社会とつながるカリキュラム・マネジメントを生かした授業を通して、よりよい社会の実現を目指す子どもが育つ「ふるさと学習」の究明 (研究・実践) に挑戦中
◆受賞歴 ・2011年 優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰、岐阜県「地域子ども支援賞」岐阜県「ふるさと教育表彰」優秀賞 ・2014年 岐阜新聞「岐阜県優秀校」表彰 ・2018年 時事通信社「教育奨励賞」努力賞 ・2019年 岐阜県「ふるさと教育表彰」最優秀賞 ・2020年 Soft Bank Group「Pepper 社会貢献プログラム プログラミング成果発表会 2020」小学校部門 金賞 読売新聞「読売教育賞」(社会科教育部門) 優秀賞

〈活動の内容〉 ※選考基準で重視している点に焦点を絞った記述と、裏付けとなる資料の準備をお願いいたします。
 ※子どもに主眼を置き、子どもたちが主体的に活動している姿、一人ひとりの成長・変化が読み取れるようご留意ください。
 ※文字サイズ：10ポイント以上指定 ※論文形式ではなく、設問に対するポイントを明確かつ端的にご明記ください。

【活動のきっかけと目的】

岐阜小学校は、城下町と官公街を校区とする岐阜市中心部の二つの小学校が統合し、平成20年度に開校した学校である。岐阜市最初のCSに指定され、「ふるさと大好き」を合い言葉に、開かれた学校として、家庭や地域と一体となった学校経営や教育活動を推進している。開校以来、児童は総合的な学習の時間を中心に、コミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師・以下CT）とともに「ふるさと学習」を展開し、学んだ成果をまとめて地域等に向けた情報発信を行ってきた。

近年は校外においても、児童自らが学習成果を発表したり、アイデアを提案したりする機会が増え、そうした発信（発表や提案）の活動は、持続可能な「地域創造型」CSへの進化・発展へと繋げることを目的としている。

【具体的な実践内容】

1. 具体的な活動内容

本校児童は、総合的な学習の時間を中心に、校区（岐阜まち）や岐阜市への理解と、故郷への愛着を段階的に深めながら、自分たちが学んだ成果をまとめ、他学年の児童、保護者や地域住民に発表していく学習を進めてきた。

社会科においても、地域の人的・物的財産を効果的に活用した授業を行い、社会的事象を「自分のこと」として捉えることができるように、CTと共に考え学び合う学習を進めている。防災に関する活動としては、国土交通省主催のシンポジウムに二度に渡って招かれ、6年生と4年生の児童がそれぞれ学習の成果を発表した。また、「願いを実現する政治」を学んだ6年生が岐阜市長に「市役所跡地活用品」を直接提案したり、「情報を生かす産業」を学習した5年生が自分たちの考えた「観光プラン」を長良川温泉組合（若女将会長）にプレゼンしたりする機会も得られるようになった。これらの社会科からの発展的な学習についても、総合的な学習の時間を使いながら、発表や提案の内容・方法を深める活動となるように努めている。

2. 活動中、子どもたちがどのように主体性・自主性を発揮しているのか

本校は、4、5年生の社会科や総合的な学習の時間に「長良川の水害から命や暮らしを守る」という内容の防災教育を行っている。平成30年度には「自分たちも地域の方と地域の暮らしを守る活動がしたい」と6年生児童が地域に働きかけ、子ども会の活動として「防災キャンプ」が行われるようになった。平成30年7月豪雨の際には、6年生の児童自らが情報収集や家族との相談、避難グッズの点検をするなどの避難準備を行い、学んだことを実際の行動に移すことができた。これらの動きは、平成31年2月の国交省主催のシンポジウムで発表することとなり、「授業実践の積み上げにより、社会のことを知るだけでなく自分と社会のつながりを実感し、自分たちにもできることがあると考えて、児童自らが社会と関わろうとすることができた。」を証明することになった。令和元年度にも、「マイ・タイムライン」を作成する自助に関する学習活動で、4年生が「自分の家はどこか」「どの避難ルートを使うか」等をもとに水害時の行動を一人一人が真剣に考え、ハザードマップからは「自分の家の浸水」や「洪水以外の土砂災害の危険」等にも気付くことができた。これらの学習成果についても、令和元年11月の国交省主催のシンポジウムにおいて、児童自らがパワーポイントによる工夫のあるプレゼン資料を作って発表することへと繋がった。

また、社会科の選択・判断の授業で「市役所跡地活用」を考えた令和元年度の6年生は、「岐阜小案をまとめて市長さんに見てもらおう」と動きだし、総合的な学習の時間を使って「多様な立場の市民が様々な活用ができる公園・広場施設にしたい」という案を確認し、具体化したイメージを集約した資料を作成して、代表者6人が市長室に行ってパワーポイントを使ったプレゼンを行い、提案書とイメージマップを手渡した。同様に、校区にある老舗旅館の若女将をCTに招いて社会科「情報を生かした観光産業」の学習をした令和2年度5年生は、総合的な学習の時間に「岐阜の観光活性化のための「長良川観光旅行」プランを5つのグループに分かれて考え、それぞれに資料や演出も工夫し、長良川温泉組合に向けた提案を行うことができた。

3. 活動・指導における工夫や特徴について

開校以来、CSとしての本校では、生活科や総合的な学習の時間に地域の各種団体をはじめ、寺院、商店、施設、官庁等からCTを招き、文化、歴史、自然、産業など、各方面からの話を聞いたり取材したりする活動を取り入れ、「岐阜まち」（校区）や岐阜市の探究活動を通して、自分たちが学んだ故郷の良さをまとめ、同学年や他学年の児童、保護者や地域の方々、行政や諸団体に発表していく学習を進めている。これらの学習活動に、恒例となった「ふれあいフェスタ」等のイベントを加えた「ふるさと学習」は、児童のみならず、教職員、保護者、地域住民、…学校に関わる全ての人々の自信や誇りへと繋がっている。岐阜小CSは、学校活性化を目指した導入当初の「学校支援・地域活用型」から、「学校支援・地域参加型」を経て、持続可能な地域づくりへと向かう「地域創造型」の学校への進化・発展を遂げつつある。

4. 活動の実施体制と継続するための仕組みや組織づくりについて

岐阜小CSは、学校運営協議会の下に、「学び部」「安全・安心部」「地域行事部」の三つの専門部を設けている。その中で「学び部」では、「読み聞かせ」活動、放課後遊び「ふるさとスクール」、夏休み講座「サマースクール」の企画・運営とともに、生活科、総合的な学習の時間、社会科等の「ふるさと学習」へのCTの参加・協力のための連絡・調整を、コーディネーターが中心となって請け負っている。CSの組織づくりにあたっては、学識経験者や地域の各種団体代表に、元PTA役員といった保護者OB世代が加わることで、大きな活性化が図られることとなってきた。

また、岐阜市中心部に位置する本校は、校区の「まちづくり協議会」等との協働のみならず、教員養成系を中心とした多くの大学、市役所をはじめとした行政機関、歴史や文化、自然、産業（農水産業・商工業・観光業）等に関わる団体（協会、組合、法人等）からの協力も得ながら、「ふるさと学習」を進めることができています。

さらに、平成29年度からは校区に隣接した位置にある国土交通省木曾川上流河川事務所とも連携を図り、防災教育にも力を入れている。平成30年度からは、その「防災・河川環境教育」モデル校の一つとなって、木曾川上流河川事務所と一緒に作成した発問や板書の計画、その他の教材（写真・年表・位置図・動画、公助や共助の取組についての資料等）を活用し、新学習指導要領に基づいた社会科や総合的な学習の時間の授業を進めている。

【活動による成果】 次の1～3の設問について、それぞれご記入をお願いします。

1. 活動の成果、子ども達の成長・変化

本校児童は、社会科等の学びを生かしながら、地域のために活動したり、社会に向けた発信や提案をしたりすることができるようになった。それは、地域教材を開発し、子どもの意識が連続できる単元構成をしたことで、子どもたちが見通しをもちながら、主体的かつ多角的に学ぶことができるようになったからである。その結果、社会的事象を「自分のこと」として考えることができるようになり、よりよい社会の実現を目指そうと、自ら行動しようとする姿に繋がっていると言える。

例えば、6年生は「平日や休日を問わず、家族連れや高齢者等の幅広い人々にぎわう場とし、岐阜らしさや災害時の避難場所としての役割も期待したい。」という「岐阜市役所跡地の活用案」を自分たちで考え、イメージマップや提案書を用意して、分かりやすい提案となるようにパワーポイントを駆使し、岐阜市長に直接プレゼンを行うことができた。この子たちの中には、「児童虐待」を「自分のこと」と受け止め、解決策の一つとして読み聞かせやドリル学習、折り紙などをする「子育てに役立つペッパー」で、Pepper プログラミングコンテスト金賞に輝く子も出現した。このような姿が生まれたのは、子どもたちが学んだことを生かし、よりよい未来のために多角的な思考を働かせることができたからだと考える。この子たちは、市長や審査員からの問い返しや切り返しを受けたときにも、既習内容や資料を根拠に自信をもって受け答えをすることができた。

昨年度末に「長良川観光旅行」プランを考え、長良川温泉組合に提案した5年生も、社会科「情報を生かす産業」で知り得た知識に、総合的な学習の時間「長良川」で体験した活動を加えた独創的なアイデアを生み出すことに繋がっていた。

前述の児童が地域に提案して始まった岐阜小校区の「防災キャンプ」は、次年度には高学年児童の企画・運営によって「危険予知トレーニング」をしたり、防災食を作って食べたりする「体育館での宿泊を伴う避難所体験」の実現へと引き継がれていた。こうした継承活動は、シンポジウム「防災教育こどもサミット」にパネリストとして参加した4年生が、「自分たちの学び」を堂々と語る姿からも見て取ることができる。

これらは、地域に密接した本物の学習が、児童の成長や自信と誇りに繋がった成果の具現化された姿であると考えられる。

2. 活動が周囲に与えている影響・効果について

多くのCTとともに学び合う「ふるさと学習」は、CTのもつ専門的な知識・技能によって、学習を質的に深めたり、補完したりすることにもなっている。従って、校外での発表・提案等の児童の活躍は、CTをはじめとする保護者や地域住民の自慢となり、地域の学校に誇りを感じることにもなっている。また、CT自身にとっても、学習サポーター、ボランティア・スタッフとして「学校に貢献できた」「自分が学校教育に役立っている」とやりがいを感じ、学校や地域への愛情や自信を一層高めることに繋がっている。ご高齢のCTからも「子どもたちから元気をもらっている」という声をたくさん聞くことができ、CTとしての経験によって笑顔が増えて幸福感をもつとともに、心身ともに一層健康な生活を過ごせると感じていることを窺い知ることができる。

国交省主催のシンポジウムにゲストで呼ばれ、平成30年7月豪雨の際の動きを発表した6年生は、多くの参観者から「子どもたちの言葉が一番心に響いた。これからの防災について大人が考えるきっかけを作ることができた。」などのコメントをいただいた。令和元年度「社会科全国大会」で公開した4年生「自然災害からくらしを守る」の授業にも、「子どもたちが学習した資料や知識をもとに、『自分だったら…』『自分の家族では…』と、水害という社会事象を『自分のこと』として考えること、水防に関わる人の思いや願いを知って意味認識が深まっていく姿が大変参考になった。」等の感想が数多く寄せられた。この学習経験は「こどもサミット」でパネリストとして発表することに発展していった。これらの防災に関する実践は、今後の学校現場における「防災教育」のモデルケースとして、多方面に寄与することになったと思われる。

令和3年3月に岐阜市が発表した「岐阜市庁舎跡活用基本構想」には、本庁舎の活用コンセプトが「ひとびとの交流を支え、ひとびとが気軽に立ち寄り、憩う空間の形成」とされ、導入する機能として「芝生や緑がもつ可能性、避難所としての活用も考え、広場などのオープンスペースを想定」が示された。これは、令和元年度に6年生が提案した「市役所跡地活用岐阜小案」が、少なからず影響を及ぼしたと考えてもおかしくないのではないかと思われる構想である。

令和2年度の5年生が考えた「長良川観光旅行」プランについても、令和3年5月現在「長良川温泉若女将会で『岐阜小学校とのコラボ企画』として実現に向けて話し合っており、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、実施時期等の発表に向けて細部を詰めているところです。」という連絡をいただいている。

本校児童の学びやアイデアが、実際に社会を動かしていく可能性があることを目の当たりにし、岐阜小学校が「地域創造型」CSへと進化・発展を遂げることを確信するとともに、今後とも「ふるさと大好き」な児童を育み、発信力や行動力を培っていくと決意を新たにしているところである。

3. 他の教育現場でも活かせるポイント

総合的な学習の時間の中に、学習の成果を発表したり、発展的に考えたことを提案したりする「発信」の機会を位置付けることで、児童生徒の達成感や成就感、自信や誇りへと結ぶことになる学習が期待できる。その場合には、学級の仲間に発表することからはじめ、同学年や他学年の児童、保護者や地域の方々へと、発信する相手や対象を段階的に広げていくことが有効である。また、行政や諸団体等の校外に向けて発信することで、関わる人や世界が広がり、学びに深まりも生まれてくるものと思われる。

発表や提案には、こうした相手意識以上に目的意識が重要になる。学習の出口を見据え、児童が自分の発信に必然を感じるような配慮や工夫が必要となる。そのためにも、総合的な学習の時間には地域の特長を生かした「ふるさと教育」を中核に据えるなど、社会的事象を「自分のこと」と捉え、自分の考えをもち、仲間と考えを練り合い、よりよい社会の実現を目指して未来に向かう主張提言や改善策の提案等ができるようにしていくことが、学習意欲や志を高めることになるものと考えられる。児童生徒が「自分」と「社会」の間にある「地域」に目を向けさせることは、現実的な学びを生み出すポイントだと考えている。

最後に、インプットした内容に自分の願いや考えを加えてアウトプットする場合には、話す力や書く力を高めるばかりでなく、情報機器を活用する力等も育まれることになる。プレゼンテーションの力をつけることは、対話(コミュニケーション)や協働(コラボレーション)の力を高めることにもなっていく。GIGA スクール構想で、一人1台ずつのタブレット端末をもつ時代になり、これを用いた発信力も求められているのである。

●添付資料(郵送分)の返却 どちらかに○をつけてください。 **希望しない・する**

- 添付資料(6点まで) ※「子どもの成果物」「活動の写真アルバム」など種類ごとにまとめてください。
- ・学校教育に関わる活動の場合：年間指導計画や教育課程への位置づけが分かる資料の添付もお願いします。
- ・学校以外の団体の場合：①組織概要(リーフレットなど)、②直近1～2年分の収支が分かる資料もご提出ください。

※資料1点あたりのページ数や動画再生時間に制限は設けておりませんが、審査委員の先生方の見やすさも考慮願います。

- ①岐阜小学校の「総合的な学習」
- ②国土交通省「防災教育シンポジウム」での岐阜小学校児童のプレゼン資料(H31.2.24 6年生、R1.11.16 4年生)
- ③岐阜小学校6年生による「市役所跡地活用」提案書(R1.7.5 6年生)
- ④岐阜市長への「市役所跡地活用案」プレゼン+報告資料(R1.7.5 6年生)
- ⑤岐阜小学校の研究紀要(令和元年度版)
- ⑥長良川温泉組合若女将会の会長への「観光プラン」プレゼン資料(R3.3.24 5年生)

以上①～⑥の添付資料は、デジタルデータとしてDVD-Rに保存(②のパワーポイント39枚目のシートに動画あり)。

- その他 参照すべきHP、刊行物、制作物、主要著書(タイトル・発行年)、論文などあれば、ご明記ください。
- ・岐阜小学校HP <https://gifu-city.schoolcms.net/gifu-e/>
- ・国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所HP 木曾川上流水防災協議会 https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/suibo_kyoudi/index.html
- ・岐阜市HP 岐阜市庁舎跡活用基本構想 <https://www.city.gifu.lg.jp/40660.htm>

〈候補者様向けアンケート〉 博報賞をお知りになられたきっかけを教えてください。複数回答可

	当財団から郵送された案内 (お届け先 :)
	新聞 (新聞名 :)
	教育専門誌 (雑誌名 :)
	学会・研究会 刊行物 (会の名称 :)
<input type="radio"/>	ご紹介・口コミ (推薦者 : 岐阜市教育委員会より)
<input type="radio"/>	インターネット検索 (検索ワード : 博報賞)
	情報・ポータルサイト (閲覧場所 :)
<input type="radio"/>	当財団 HP・フェイスブック・SNS	
	当財団メールマガジン	
	再チャレンジ	
	その他 ()

◆活動について作成いただいた方

役職 岐阜小学校長 お名前 藤田 忠久